

飼料用稲の栽培と稲ホールクroppサイレージの 利用拡大を目指した畜産セミナーを開催

畜産センターでは、輸入乾草などの価格が高騰する中、飼料用稲の生産・利用拡大を図るため、J A 京都と J A 京都にのくのにのクラスター協議会と共催で畜産セミナーを 9 月 17 日に開催しました。

本セミナーには、府内外の畜産農家及び関係機関から約 60 名が参加し、新品種の飼料用稲の展示ほを見学した後、近畿中国四国農業研究センターの中込弘二主任研究員から「稲ホールクroppサイレージ (WCS) の多収と品質向上のための留意点について」と題して講演いただきました。さらに、J A 京都福知山支店の山西勝也生産課長と当センターの職員から、京都府における WCS の栽培・利用状況について現況報告を行いました。

出席者は、穂の数や重量を重視する主食用稲の栽培とは異なり、茎葉重量の割合を高くする飼料用稲専用種の栽培方法や留意点について興味深く聞き入り、今後の栽培に生かしたいと意欲的でした。



雨の中、飼料用米の試験ほ場を見学



畜産セミナーの様子